

議事要旨

令和元年度 第1回千葉県移動性向上プロジェクト委員会

開催日時：令和元年7月26日（金） 10:30～11:40

開催場所：千葉国道事務所 202 会議室

委員会出席	千葉工業大学 創造工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
	千葉県警察本部 交通部 交通総務課 係長	清水 貞（代理出席）
	千葉県警察本部 交通部 交通規制課 課長補佐	高津 功（代理出席）
	一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 事務局長	梶村 一郎
	一般社団法人 千葉県トラック協会 専務理事	高安 茂
	一般社団法人 千葉県バス協会 専務理事	成田 斉
	株式会社 千葉日报社 クロスメディア局長	松本 祥彦
	公益社団法人 千葉県観光物産協会 専務理事	椎名 誠
	東日本高速道路 株式会社 千葉管理事務所 所長	糸山 清高
	東日本高速道路 株式会社 市原管理事務所 所長	矢崎 敏之
	東日本高速道路 株式会社 千葉工事事務所 所長	上村 治
	千葉市 建設局 道路部 部長	中村 浩一
	千葉市 消防局 警防部 部長	手塚 康幸
	千葉県 県土整備部 道路整備課 課長	長島 博之
	千葉県 県土整備部 道路計画課 課長	菰田 直典
	国土交通省 関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	吉村 学（代理出席）
	国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所 所長	小林 達徳
	国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 所長	坂井 康一

■「3. 前回委員会での主な指摘事項とその対応」について（p3～8）

○評価区間長について（p4～7）

- ・ 理屈上は信号1回待ちの範囲であれば交差点の処理能力を超えていないと判断できるため、評価区間長は少なくとも200m以上とすることが妥当である。ただし、信号制御のパラメータは箇所によって異なるため、代表的な主要渋滞箇所にて詳細分析する余地があるとの意見があった。
- ・ 交差点から概ね150～200mの車両感知器により把握された需要状況を踏まえて信号現示を制御しており、評価区間長を200m以上とすることは、信号制御の方法とも整合しているとの意見があった。

○勝田台団地入口交差点の効果確認（p8）

- ・ 右折レーンを延長したことで、常に右折レーンに車両が流入できるようになっており、改良によって交通の流れが良くなったと言えるとの意見があった。
- ・ 従道路の交通量が増えているため、従道路に青時間を配分すべきかもしれないが、幹線道路である16号のボトルネックになってしまう可能性があるため慎重に検討する必要があるとの意見があった。
- ・ 従道路側の道路管理者である八千代市とも連携した検討が必要との意見があった。

■「4. 対策実施箇所の効果確認」について（p9～17）

- ・ 信号1回待ちの範囲で通行できるのに、信号制御によっては評価指標の基準に引っかかっている可能性があるため、指標の運用を見直していくべきとの意見があった。

■「5. 外環開通による影響の確認」について（p18～19）

- ・ 外環開通によって高速バスへの効果は大きく実感している。また、一般道を走行するバスも定時運行が図れているとの意見があった。
- ・ 外環が開通したことで、周辺の県道の流れが良くなっているため、生活道路への流入が減っており、生活道路の安全性は向上しているとの意見があった。

■「6. 今後の渋滞対策の進め方」について (p20)

- ・対策状況の推移については、評価区間長の見直しにより対策後も3指標に該当している箇所が主要渋滞箇所から除外できる可能性があるとの意見があった。

■「8. 穴川インターにおける付加車線設置効果の報告」について (p22)

- ・穴川ICの改良工事は、明確に効果が出ているとの意見があった。

■その他

- ・評価手法の見直しの検討については、関係機関で方針や運用の調整が必要との意見があった。
- ・依然として国道16号の渋滞が著しいことから、千葉柏道路の早期事業化を要望しているため、事業の状況を教えてもらいたいとの質問があり、事務局より千葉柏道路は大規模事業であるため、必要性や優先順位を引き続き検討していくとともに、沿線市からも意見を聞きながら進めていくが、当面は短期対策などを合わせて実施可能性を検討していきたいとの回答があった。

以上